

## 【分科会Ⅱ】 12:45～15:15

### ⑧ 精神保健福祉士ってなに？

精神保健福祉士の資格が創設されて10年以上が経過しました。法律や制度など当事者および私たち専門職を取り巻く環境が変化する中での専門性や価値とは？調査研究や実践報告をもとに検証します。

座長：木太直人（東横恵愛病院）  
座長：高野静子（旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと）

- ⑧-1 都道府県組織における権利擁護に関する取り組みの現状  
— そこから見えてくるPSWの課題とは —  
○上野容子（東京家政大学）・岩崎香（順天堂大学）・伊藤亜希子（東京武蔵野病院）伊東秀幸（田園調布学園大学）・金成透（所沢慈光病院）・坂本千代枝（大正大学）澤恭弘・三澤孝夫（国立武蔵病院）・中川さゆり（地域生活支援センタープラザ）宮崎まさ江（長野大学）
- ⑧-2 医療観察法における鑑定入院の受け入れに関する実践報告  
○石川美帆・三島泰郎・井上薫子（長谷川病院）
- ⑧-3 民間移送会社による「移送サービス」を利用した入院に関する実態把握  
～患者と家族からの聞き取り調査をもとに入院援助を考察する～  
○大塚直子・川口真知子・武田伸郎・菊池健（井之頭病院）・岩崎香（順天堂大学）
- ⑧-4 障害者自立支援法市町村調査から見えてきたもの  
○高橋悠子（鶴巻工芸）・石川孝行（サポートセンターびーな'S）・平石友子（相模ヶ丘病院）
- ⑧-5 初任者PSWの就労支援に対する認識の傾向と背景  
○吉澤浩一（臨床実践研修会 / 地域生活支援センター手稲）・尾形多佳士（同研修会 / 平松記念病院）・石川央弥（同研修会 / 宮の森記念病院）・富岡奈巳（同研修会 / ウェルネス望洋台医院）・徳永達哉（同研修会 / 桑園病院）・長谷川聡（北海道医療大学）
- ⑧-6 自己決定援助の実際 — 予備調査報告  
○飛渡祐輝（砂川慈恵会病院）、坂根宏樹（地域生活支援センターぽぽろ）、高野和美（勤医協札幌病院）、花澤佳代（北海道医療大学）、今野愛子（クリニック養生邑）、嶋影保孝（札幌西の峰病院）、蒔田剛志（ケアホームサルーテI）

### ⑨ 広がる精神保健福祉士の可能性

社会状況の変化とともに、精神保健福祉士のはたらきが期待される領域は広がりを見せています。新たな取り組みへの経過と、それにより見えてきた課題を考察し、今後の精神保健福祉士の活躍の可能性について追究します。

座長：岡部正文（医療法人立川メディカルセンター茨内地域生活支援センター）  
座長：助川征雄（聖学院大学）

- ⑨-1 ひきこもりと強迫性障害・・・ファミリーソーシャルワークの試み  
○齋藤義明（ライフコンビニ大きな手）
- ⑨-2 PSWが行うダンス / ムーヴメントセラピー  
○天野敬子（不登校・ひきこもり研究所）
- ⑨-3 「働きたい」を後押しする～行動を促した研修合宿の取り組み～  
○太田幸治（精神障がい者就労支援事業所アレビアン）

- ⑨-4 教育の場におけるソーシャルワーカー導入の意義と今後の展開の可能性  
○浜田知美・片岡信之・西谷清美・島影俊英・富島喜揮（四国学院大学）、小谷尚子（四国学院大学大学院）、蓮井真紀（東かがわ市教育支援センター）、齋中康人（かまだメンタルクリニック）、詫間佳子（独法善通寺病院）
- ⑨-5 ひきこもりEメール相談事業実践報告（県委託事業を受けて）  
○中住正紀（可知病院）、宮沢和志（名古屋医専）、加藤裕美（杉田病院）、森 寛之（通所授産施設ハーミット）、井手千花（一の草病院）、中村雅代（北林病院）、長谷川俊雄（愛知県立大学）

## ⑩ つなごう！支援のちから

具体的支援の展開に必要な不可欠なチームアプローチの現場では、専門性を踏まえた精神保健福祉士の確かな実践が求められています。関係機関・他職種との連携の中で、私たちが果たす役割とは何でしょうか。実践・課題から考察します。

座長：伊東秀幸（田園調布学園大学）

座長：渡邊由美子（市川市役所）

- ⑩-1 犯罪被害者支援と精神保健福祉士  
○道下あかね（新垣病院）
- ⑩-2 精神科身体合併症転院事業の実施状況と課題について  
○田畑健司（横浜市こころの健康相談センター）
- ⑩-3 児童相談所から紹介された虐待する母親への関わり  
その1 初診からカウンセリング導入まで  
○宮崎全代・船越洋子・松田幸代（上大岡メンタルクリニック）
- ⑩-4 うつ病・不安障害を対象とした復職支援マネジメントプログラム（第二報）  
○加藤由希・福島南・新名久美子・阿部桜子・今関純宇・五十嵐良雄（メディカルケア虎ノ門）
- ⑩-5 スクールソーシャルワーカーと家族支援～精神保健福祉士としての役割～  
○西 友子（大阪樟蔭女子大学）

## ⑪ 地域で生（活）きる

入院生活から地域での生活へ。その人らしく‘暮らす’ために、どのようなかかわりが求められているのでしょうか。住むこと・食えること等さまざまな生活の視点に立った支援のあり方を、実践・研究の立場から考察します。

座長：白石直己（やどかりの里援護寮）

座長：三橋良子（障害者相談支援センターゆりあす）

- ⑪-1 居住支援の実践における地域移行支援・退院促進支援のあり方について  
○鵜飼彩子（伊丹市健康福祉部健康生活室障害福祉課）
- ⑪-2 在宅統合失調症者の食を介した生活支援に関する研究  
— 食生活の状況と関連要因の模索 —  
○瀧澤直子（東海大学医療技術短期大学）、根本隆浩（愛光病院）、並里美乃（秦野病院）、若松瑞恵（大和病院）
- ⑪-3 通過型居住施設における実践から見えてきた退居者支援（アフターケア）の意義  
○川田敬恵・北川裕道（グループホーム美山ヒルズ）
- ⑪-4 訪問支援に関する一考察

○岩谷美佳（東京武蔵野病院）

- ⑪-5 生活訓練施設を経過し自立生活をする者の一特性  
○井上亜希子（中・昭和障害者地域生活支援センター）、中村理沙（生活訓練施設無心寮）
- ⑪-6 退院促進支援事業等の課題から生まれた社会資源について  
○長谷部隆一（地域生活支援センターさ・ポート）

## ⑫ 精神保健福祉士の成長過程

精神保健福祉士が実習、現場経験を経て成長していく過程について考え、私たちが悩みながらもより良い支援を実践し、働きがいのある職種になるためにはどうしていけばよいのかをフロアとともに考えましょう。

座長：石川孝行（サポートセンターびーな'S）

座長：木下了丞（株式会社麻生 飯塚病院）

- ⑫-1 精神保健福祉援助実習における実習生の達成動機の変化に関する研究  
○大西 良・辻丸秀策・大岡由佳・藤島法仁・占部尊士・末崎政晃・福山裕夫（久留米大学）
- ⑫-2 いきいきと、より良い援助・支援をするために  
— 精神科病院における精神保健福祉士のバーンアウト要因 —  
○若月裕加（鷹岡病院）
- ⑫-3 PSWの働きがいに影響を与える要因 — 利用者とのかかわりを中心に —  
○伊藤千尋（国際医療福祉大学）
- ⑫-4 「精神保健福祉援助実習」期間中の学生の変化要因に関する検討  
— 実習記録ノートにおける記録内容の質的分析を通して —  
○宮崎まさ江・端田篤人（長野大学）
- ⑫-5 八王子PSW研究会の記録分析（第1報）  
○福富 律（立正大学）

## ⑬ 実習から見えてくるもの

精神保健福祉士の国家資格が創設されて以来、教育機関、実習施設とも実習のあり方について試行錯誤が繰り返されています。実習体験者の声も踏まえ、より魅力ある指導体制やシステムを構築するヒントとしましょう。

座長：田村綾子（社団法人日本精神保健福祉士協会）

座長：名城健二（沖縄大学）

- ⑬-1 ソーシャルワーク実習における記録の重要性  
○野村恭代（帝塚山大学）
- ⑬-2 学生アンケートから考える効果的な現場実習のあり方について  
○飛田義幸（小規模通所授産施設あすなるの家）、長坂和則（健康科学大学）
- ⑬-3 精神保健福祉士教育におけるリフレクティング・プロセスの応用  
○壬生明日香（福山平成大学）、矢原隆行（広島国際大学）
- ⑬-4 精神保健福祉援助実習における「展開」を意識した実習指導に関する一考察  
○田中和彦（愛知みずほ大学）
- ⑬-5 現場実習って何？  
～自分自身と向き合う第一歩：年間100名の実習生との出会いから～  
○加本有希・榎本歌代子・内山恵美・川内いずみ・江口万里・榎本 稔（榎本クリニック）、

上田知子（日本福祉教育専門学校）

## ⑭ ソーシャルワークの多様性

精神保健福祉士が‘かかわる’ことは、実に幅広く、当事者を中心に、市民や専門職、地域・行政・病院等、その対象も場もさまざまです。多様な実践報告を受け、枠をこえてソーシャルワークの可能性を広げましょう。

座長：岩尾 貴（石川県立高松病院）

座長：鈴木 剛（川崎市役所）

- ⑭-1 市民性と専門性を活かした包括的な地域支援の取り組み  
三浦市における精神保健福祉活動のこれまでの歩みとこれから  
○岩崎諭史（NPO法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会ぴあ三浦）
- ⑭-2 障害者支援施設における環境づくり  
環境支援指針（PEAP：Professional Environmental Assessment Protocol）を使った取り組み  
○木津英昭（指定障害者支援施設こころの風元気村）
- ⑭-3 八尾市での障害者基本計画策定から事業実現における実践報告  
○中池穂高（地域活動支援センターちのくらぶ）、山内はるひ（山本病院）
- ⑭-4 SA（Schizophrenics Anonymous）のあり様と回復における一考察  
○橋本直子（関西学院大学大学院）
- ⑭-5 相談従事者の自殺予防支援に対する意識調査  
○山田素朋子・名取みぎわ・河西千秋（横浜市立大学精神医学教室）
- ⑭-6 地域作業所への調査・研究を通して支援のあり方を考察する～愛知県精神保健福祉センターにおける「地域精神保健医療福祉対策研究会」事業を通して（第二報）～  
○宮沢和志（名古屋医専）、青木聖久（日本福祉大学）、円谷俊夫（愛知県一宮保健所）、池戸悦子（桶狭間病院）、大山雪子・中村直子・大野高稔（愛知県精神保健福祉センター）

## ⑮ ポスターセッション

- ⑮-1 精神障害者地域生活体験型住居カレントハウスの実践と課題  
○結城佳子・鈴木敦子（名寄市立大学）、猪原ひろみ・佐藤稔（道北センター福祉会道北地域生活支援センター）
- ⑮-2 精神障害者生活訓練施設における食と栄養に関する取り組みに関する研究  
○赤瀬川修（九州栄養福祉大学）
- ⑮-3 多機関協働によるスーパービジョンシステムの実践について  
○江間由紀夫（東北文化学園大学）
- ⑮-4 アメリカにおけるスクールソーシャルワークの歴史一考察  
○今川晋平・長江崇之（東北福祉大学大学院）、古川奨（北海道医療大学大学院）高橋真由美（特別医療法人一陽会病院）、阿部正孝（東北福祉大学）
- ⑮-5 アジア及び日本におけるスクールソーシャルワークの歴史の一考察  
○長江崇之・今川晋平（東北福祉大学大学院）、古川奨（北海道医療大学大学院）高橋真由美（特別医療法人一陽会病院）、阿部正孝（東北福祉大学）